

令和7年度吉浦中学校区研究推進計画

吉浦中学校区 校番（21）呉市立吉浦小学校

校長名 吉原 知美

1 学校教育目標

かしこく やさしく たくましく

2 目指す児童生徒像

○自分のよさに気づき、そのよさを豊かに表現できる児童生徒…自分を大切にする（自利）

○相手を思いやる心もち、友だちと力を合わせる児童生徒 …相手を大切にする（利他）

○生まれてきたことを喜び、家族・地域に感謝・貢献する児童生徒

…家族・地域を大切にする（貢献）

3 育成をめざす資質・能力（具体の姿）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識，技能	思考力・判断力・表現力	主体性
後期	・学んだ知識や技能を活用して課題解決することができる。	・未知の状況にも対応できるよう，尋ねたり，調べたりすることで，ものの見方や考え方を広げ深めることができる。	・自分から進んでよりよい自分のやり方を選び，試行錯誤しながら課題解決しようとしている。
中期	・学んだ知識や技能を活用することができる。	・尋ねたり，調べたりして，問題解決に必要な情報を見付け，選び出すことができる。	・自分から進んでよりよい自分のやり方を見付け，課題解決しようとしている。
前期	・学んだ知識や技能を身に付けることができる。	・尋ねたり，調べたりして，関係がありそうなものを見付けることができる。	・自分から進んで自分のやり方を見付け，課題解決しようとしている。

4 研究主題等

(1) 研究主題

互いに認め合いながら，自ら考え表現する児童生徒の育成

～「チャレンジ」「伝え合い」「振り返り」のある授業づくり～

(2) 設定理由

昨年度，吉浦中学校区では，研究主題を「自分から進んで課題解決に取り組むことができる児童生徒の育成 ～「チャレンジ」（選択肢と自己決定）の取組を通して～」と設定し，学びの選択肢を増やし，自己決定させる「チャレンジ」の場面を，授業に仕組む取組を行った。また，各単元で育成したい資質・能力を児童生徒と共有し，「振り返り」の場面を仕組むことで「主体性」の育成を重点としてきた。

令和6年度の成果と課題は，以下のような結果として表れた。

【視点1】児童生徒アンケートにおける肯定的回答85%以上

	小学校		中学校	
	1学期	2学期	1学期	2学期
授業で課題を解決するために進んで資料を集めたり取材をしたりする。	89.9%	90.3%	81.3%	84.4%
新しい問題に出会ったときに解いてみたいと思う。	95.4%	91.3%	72.7%	68.5%
自分の考えを表現しようとしている。	88.8%	84.1%	85.9%	85.1%
学んだことを活用しようとしている。	92.5%	94.4%	94.5%	95.7%

【視点2】学力調査での通過率 全国平均以上

○小学校の標準学力調査

	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
本校の平均	83.3	88.7	79.9	82.7	70.7	81.0	68.5	67.2	75.8	73.8	63.4	63.6
全国の平均	74.0	81.1	75.9	69.1	62.3	70.9	69.9	68.0	71.9	62.2	69.9	67.3

○小学校の全国学力・学習状況調査の通過率（%）

	国語	算数
本校の平均	68.0	59.0
全国の平均	67.7	63.4

○中学校の標準学力調査（1・2年）及び全国学力・学習状況調査（3年）の通過率（%）

	1年			2年			3年	
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学
本校の平均	42.1	42.6	46.0	56.9	46.9	42.7	54	51
全国の平均	48.4	52.3	51.1	63.7	47.4	50.9	58.1	52.5

【視点1】において、小中ともに、概ね高い肯定的回答を得られている。これらは「チャレンジ」の取組を通して、児童生徒が自ら進んで自己決定し、課題解決しようとしていることを示していると考ええる。【視点2】において、学力調査の結果は下学年から変容が少しずつ見られている。このことは児童生徒の主体的な学習への取組の成果とみられる。

以上のことから、昨年度までの研究については、一定の成果が見られたと考える。しかしながら、全国平均と比較して、学力が十分定着しているとは言えない。その一因として、学習集団の中で十分に心の居場所づくりができていないことが考えられる。

そのため、今年度は、心の居場所づくりを大切にしながら、確かな学力につなげていく。

(3) 研究仮説

安心安全な心の居場所をベースとして、授業において「チャレンジ」「伝え合い」「振り返り」の取組を行えば、児童生徒は互いに認め合いながら、自ら考え表現することができるであろう。

(4) 研究内容

【授業スタイル】

「めあて」：単元の目標につながる児童生徒主体のゴール設定をする。

「チャレンジ」：個別最適な学習方法を設定し自ら学ぶ場を保障する。

「伝え合い」：自分の考えを互いに共有することで思考を深め、表現する力を育む。

指導者からの形成的評価や友達との相互評価を受け、考えを付加・修正することで「めあて」を達成する。

「振り返り」：評価の3観点に沿って、自己の学びを認知する。

【心の居場所づくり】

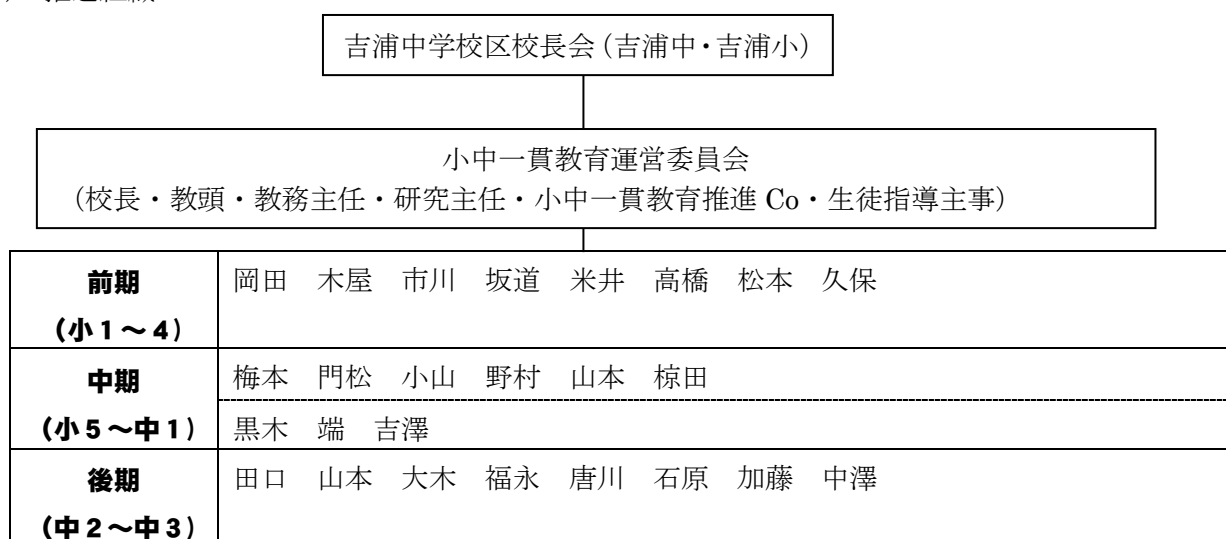
- ・子供の良さを認め、肯定的な評価を返す。
- ・児童生徒の行動に意識を向け、心に寄り添い支援していく。

(5) 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	達成目標
【視点1】学校生活に関わる項目で肯定的回答が高まったか。	児童生徒アンケート 5月と12月	児童生徒の 肯定的回答	肯定的回答80%以上
【視点2】思考・表現に関わる項目で肯定的回答が高まったか。	児童生徒アンケート 5月と12月	児童生徒の 肯定的回答	肯定的回答80%以上
【視点3】児童生徒の学力が向上したか。	標準学力調査 ・小学校：1月 【国語・算数】 ・中学校：6月と1月 (3年は11月) 【国語・数学・英語】	全国平均との差あるいは前回実施調査との差	・小学校 全国平均以上 ・中学校 全国平均以上の教科・学年の増加

5 推進体制

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等(中→小)

○ 中学校教員による乗り入れ授業

・吉浦小学校第6学年 算数科または外国語科(1時間 2学期または3学期実施)

イ 小学校教科担任制等

○ 実施計画なし

6 推進計画

月 日	実施内容	備考
4 月 2 日	小中一貫運営委員会【吉浦小学校】	
4 月 1 4 日	○第 1 回全体会【吉浦小学校】 (年間計画・研究推進・各部会の研究推進計画の作成)	
4 月 1 5 日	○全国学力・学習状況調査 質問紙調査 (中学校)	
4 月 1 7 日	○全国学力・学習状況調査 質問紙調査 (小学校)	
5 月	○Q U 実施 (中学校・1 回目) ○児童生徒への意識調査アンケートの実施及び分析	
6 月	○広島県「基礎・基本」定着状況調査質問紙調査 ○第 2 回全体会【吉浦中学校】 授業研究 中学校 教科：音楽 (大木教諭)	指導主事
8 月	○第 3 回全体会【吉浦小学校】	指導主事
1 0 月	○Q U 実施 (中学校・2 回目) ○さつまいも収穫交流会 (小 1 ・中 2) ○第 4 回全体会【吉浦小学校】 授業研究 小学校 教科：算数 (市川教諭)	指導主事
1 2 月	○研究のまとめ開始 ○児童生徒意識調査アンケートの実施及び分析	
1 月	小中一貫運営委員会【吉浦小学校】 (研究のまとめ・成果と課題の整理) 【吉浦中入学説明会】	
3 月	○令和 8 年度研究推進計画立案	

7 その他

- ・小中一貫教育だよりを年に 1 回，発行する。(3 学期)